

ルアンパバン

World heritage city Luangprabang

ルアンパバンはランサン王国(1353-1975)の王都で、古くはムアン・スワといい、その後シェントーンと呼ばれるようになった。カーン川とメコン川の合流地点に位置する緑豊かな町ルアンパバンは、その美しいラオスらしい町並みと、歴史的、文化的遺跡保護の観点から、1995年、ユネスコによって世界遺産に指定された。プーシーの丘から町並みが一望でき、ルアンパバン名物でもある夕陽は荘厳だ



王宮博物館 Royal Palace Museum

フランス植民地時代の1904年に当時の王シーサワンウォンとその家族の宮殿として立てられた。メコン川沿いに位置し、メコンを旅してきた公式客を出迎えるための棧橋を備えている。現在は博物館になっており、世界各国からの贈呈品や黄金仏などが展示されている

パクオウ洞窟 Pak Ou Caves

王宮博物館の棧橋より船で約2時間、メコン川をおよそ35km遡る。16世紀にセタティラート王により発見されたといわれ、洞窟内には人々が運び込んだ4000体以上の仏像が安置されている。



ワット・シェントーン Wat Xieng Thong

この寺院は、1560年にセティラート王によって王家の菩提寺として建立された。屋根が軒に向かって低く流れるように作られている、典型的なルアンパバン様式の建物で、ルアンパバンで一番荘厳な寺院である。本堂裏側のタイルによって描かれた「生命の樹」のレリーフは素晴らしく、一見の価値がある。



パクセ Pakxe

チャンパサック県は南西ラオスに位置し、タイとカンボジアに国境を接している。県とはメコン川とセドン川の合流地点に位置しているパクセ。チャンパサックはカンボジアにアンコールワットを建設したクメール民族の発祥の地と言われている。またチャンパサックはまだ原始的な自然が残っており、エコ・ツーリズムに適する地域としても注目されている。



ワット・プー World heritage Wat Phu

ワットプーとは山のお寺と言う意味で、小高い丘を利用して建立された広大なお寺。300mほど続く参道を経て、北殿と南殿の間を西に進むと本殿に続く石段が始まる。文献によるとこの主祠堂の建造は7世紀とされ、アンコール時代にはリンガが安置されていた。

コーンパペンの滝 Khone Phapheng Falls

コーンパペン滝は、ラオス南部のチャンパサック県にあるメコン川最大の滝。コーン島やカンボジア国境からも近い。滝の高さは21mで、川沿いに10km以上に渡って滝が続いている。平均流量は約11,000km³/sである。滝の周辺は島と流路が点在している。



タラート・ダオブファン Talat Dahofan

パークセーでは最大の市場。この周辺は、土地開発の真っ最中で、これから益々賑わいを見せる場所になるだろう。この市場は大勢の買い物客で賑わっている。ソンテウなどの乗り物に乗って来る人も多く、駐車場にはトゥクトゥクやソンテウが隙間なしに客待ちをしている。生活に必要な物は何でも売られており、野菜から金までが売買されている。



平成23年10月吉日